No.139

こんにちは！教育委員です





北海道博物館リニューアルオープン！
愛称 森のちゃれんが

北海道 開拓記念館(厚別)は，総合的な歴史博物館として昭和 46 年の開館から 40 年以上にわたり，北海道の歴史と先人の遺産を後世に伝える役割を果たしてきました。また，平成 6 年に設置された北海道立アイヌ民族文化研究センターは，アイヌ文化に関する専門的な調査研究等を行う機関として，アイヌ文化の継承と振興に寄与してきました。

4 月 18 日(土)に両機関が統合され，新たに北海道の自然・歴史・文化を広く扱う『北海道博物館(愛称：森のちゃれんが)』としてリニューアルオープンしました。

私(中島)は，前日に開催された開館記念式典にピリカ旧石器文化館館長として出席してきました。特別観覧では，バリアフリー等で一新された施設で，五感を働かせながら楽しく学べる博物館であるということを体験できました。

展示室は「北海道 120 万年物語」・「アイヌ文化の世界」・「北海道らしさの秘密」・「私たちの時代へ」・「生き物たちの北海道」の 5 つのテーマにより構成されています。北海道の豊かな自然，特色ある歴史や文化を広く紹介する内容は必見です。

この夏 (8 月 8 日㈯～ 10 日㈪)，「ドリームバスツアー」が開催されます。研修プログラムとして「Kitara コンサートホール今金っ子まるごと体験」が企画されており，今金町の子どもたちも参加を楽しみにしています。



(式典の様子)



(館内の様子)

おめでとう!!今金町立今金小学校
－子どもの読書活動優秀実践校文部科学大臣表彰－

この表彰は，文部科学大臣が，子どもの読書意欲を高める実践を積極的に行っている学校等に対し授与するものです。道内では，今金小学校(谷口光伸校長)の他，札幌市立中央中学校，浦幌町立上浦幌中学校が受賞しています。

今金小学校では，国語科担当の教職員らが中心となって「看図作文」に取り組んでいます。「看図作文」は，絵図の読解を通して「読み」「書き」に苦手意識をもつ子どもでも意欲的に学べるよう開発された指導法です。「読書と作文のまち今金」の主要な教育実践となっています。また，町の図書室司書派遣による学校図書館運営支援や図書環境整備，読書意欲の向上を図る「図書ポイント制度」の導入，読み聞かせボランティアサークルによる定期的な読み聞かせなどの取り組みも評価されました。

表彰式は，「子ども読書の日」を記念して開かれた「子ども読書活動フォーラム」(4/23 東京都)で行われ，谷口校長先生が出席しました。



(左：表彰状を手にする谷口光伸校長)

「今金町総合体育館・図書館建設構想委員」設置

昨年，住民の体育・スポーツの拠点施設として利用されている今金町総合体育館(昭和 51 年 3 月竣工，築 39 年)の耐震診断を実施しました。「倒壊の危険性が高い(アリーナ棟)」との判定となりました。このため，当初の耐震補強ではなく，新しく建設することで議会の承認を頂きました。

建設にあたっては，懸案であった図書館や子育て支援，災害時の避難施設としての機能を備えた施設など，時代のニーズに対応した施設となるよう構想委員会を設置し，平成 30 年度の完成を目指します。

構想委員会は，一般公募者 2 名を含む 10 名で構成されます。意見聴取者として社会教育関係の 3 委員会の正副委員長 6 名も加わります。

5 月 14 日(木)，第 1 回今金町総合体育館・図書館構想委員会が開催され，外崎秀人町長より挨拶を頂いた後，田中職務代理からそれぞれの委員に委嘱状が交付されました。委員長に山田 悟氏，副委員長に多田佳正氏を選出し，今後の委員会日程や先進地視察などについて協議されました。

発　行：今金町教育委員会
〒 049-4393　北海道瀬棚郡今金町字今金 48-1
℡ :0137-82-3488【No. 139】H27(2015).5.25
E-mail:mitsuhiro.nakajima@town.imakane.lg.jp

委員リレー寄稿
「歳時記」



今月は，橘宣雄教育委員長です。

夫婦の旅→遠い島根県→

夫婦とも今年で高齢者と言われる年齢になる。二人での旅行が「出来る」ことになったのは，皮肉なことに 95 歳となる母が ,2 年ほど前に，大変な混乱を伴う認知症が進み，長期療養型の病院へ入院したことに始まる。

昨年は，倉敷・奈良。今回は山陰地方島根県安来市の足立美術館・和鋼博物館・出雲市の出雲大社・松江市内・小泉八雲記念館である。

最初の目的地である足立美術館までは，函館を出発し，羽田空港経由米子空港着で 9 時間を要した。本当に遠い。

足立美術館は，日本庭園の見事さと，横山大観作品の収録の多いことで名高い。この美術館を創った人は，一代で財をなし，出身地の集落に，これを建てた。山陰地方の本当の田舎だが，今では多くの人が訪れる観光地になっている。入場料が日本で一番高い美術館と言われているらしい。庭園の美しさは足立美術館で検索すると，その様子が見られ，遠くの山々までを借景とした日本庭園である。

旅館に着いて，食事までは時間があり，しかも美術館までは，徒歩 1 分の距離であり，周辺を歩くことにした。

なんと，庭園のすぐ裏には一般道が走っていた。道路の左手に庭の生け垣，右手には背の高い手入れの行き届いた様々の木々が植えられており，その右手には背の高い手入れの行き届いた様々の木々が植えられており，その右手は水量の豊富な川が流れ，はるか向こうに，標高 500m ほどの山々が遠望される。

朝一番の入場者となり，開館時間の 30 分前より入館でき，職員の皆さんが庭の掃除をするのを見ながら館内に入る。

本当に見事な広大な庭園が見えた。よくよく見ると昨夕，見た生垣が所々に見える。帰ってから調べると庭の奥行きは，わずか 40m しかないことが分かった。川の水を庭に引き，遠景の山々も活用した計算づくの広大に見えるよう作庭した「額縁庭園」となっていたのであった。残念なことに，その美しい庭園へ入ることはできない。横山大観の常設展・竹内栖凰・橋本関雪の特別展も見ごたえがあるものだった。

出雲大社は，我々のような年齢と，縁結びのご利益期待するのか若い女性やカップルが多い。参道沿いには様々な樹木が，うっそうと茂り，植物に多少興味のある私には，北海道では見ることもない種が多く，それぞれの木に種類の名札がかけられていたことも嬉しく感じた。

本殿表面は見ることが出来ないが，建物群を一周しても大した距離ではなく，本殿の真後ろからは，近い距離で様々な屋根の重なりが見え ,2 年前に葺き替えられた檜皮葺の色の重厚感と厳かな雰囲気がよく感じられる。隣地にある博物館にも出雲大社をはじめとするこの地域の歴史を伝える銅鐸・銅矛など様々の現物が展示されており，興味深いものがあった。

松江城で見た「なんじゃもんじゃ」の木，白い細長い花びらの花が咲いていたが，遠目で見た印象は，この辺でこれから咲くニセアカシアの花に似ている。小泉八雲記念館は，高校時代の夏期講習で教材になった小泉八雲「怪談」の対訳本で興味を持ったのを思い出し，立ち寄りたかったところ。訪れた 3 日後に松江城が国宝に指定された。

和鋼博物館は，安来市にあり，この周辺は日本古来の鉄の産地であり，その製鉄技術「たたら」をはじめ，その伝承を引き継ぐ現在の特殊鋼を生産するこの地を，紹介する館である。当時の製鉄にかかわる様々の資料が展示されており，特に「たたら製鉄」に関する資料・実物の鋼・鉄などがあり，たたらで造られた 3t もの鋼と鉄の塊「けら」・鋼 (はがね) と鉄のちがい・安来市に，現在も世界でも冠たる特殊鋼の生産工場が 2 つあり，その工場から生産される鋼の製品が，我々の日常でもよくみられるものがあり，包丁・カミソリの刃・理容ハサミ・自動車のエンジン部分の一部ほかなど。日本刀制作の必修原料の玉鋼はたたら製鉄で造られた今も全国の刀工に供給されていることも紹介展示されている。

自分たち夫婦とも，高齢者の分類に入るとともに，旅で出会った人々の年齢，特に，我々より上と同世代と思われる夫婦に目線がいった。

旅は疲れるが，歩けるうちに興味を持つ各地を，自分たちの企画で歩きたいものだ。

